世界とつながるきっかけづくり

気温一桁の真冬のオーストラリアから、30度を超える真夏の日本へ。ドロマーナ小学校とレッドヒル小学校の生徒20人と引率の先生4人の合計24人が、行方市へ来訪しました。今回の来訪は、平成30（2018）年以来2回目で、6年ぶりに実現しました。

市内の全小学校を訪問

両校は、北浦小学校と麻生小学校をそれぞれ交流校として、1年間を通してインターネットを使って交流を行っています。画面を通して「会って」いますが、実際に「会った」のは、今回が初めて。

市内の全小学校を訪問し、各校が用意したさまざまなプログラムで、一緒に交流を行いました。どの学校の児童も、習った英語を使い、時にはジェスチャーを交えながら、一生懸命にコミュニケーションを取ろうとする姿は、とても印象的でした。

日常生活では、学んだ英語を使う機会も少ない中で、オーストラリアの同年代の生徒との交流は、とても貴重な体験です。今回は、この海外交流事業をレポートします。

ドロマーナ小学校 **ルチアーナ**さん

今回訪問した生徒の代表。
日本が好きで、日本語を日々勉強しています。

日本への訪問は、とても楽しく、驚きの連続でした。学校での授業内容は、オーストラリアと似ていました。印象に残っているのは琴を演奏したことで、奏でる音色が日本にいることを感じさせてくれました。また、ホームステイでは、これまでに学んだ日本語を使ってコミュニケーションできたことに感動しました。ずっとしてみたかった日本での生活を体験できたことは、とてもいい思い出になりました。
必ずまた日本を訪問して、もっと日本の文化を体験したいです。次回は、日本の礼儀作法をたくさん学んでから訪問したいと思いました。

メルボルンってどんなまち

■人口／5,207,145人
（2023年6月時点）
■面積／9,992㎢

メルボルンは、オーストラリア南東部にあるヴィクトリア州の州都です。過去には「世界一住みやすい街ランキング」で、7年連続で1位になったこともある世界的にも人気のある都市です。
ドロマーナとレッドヒルは、メルボルンの中心部から南に90kmの場所にあります。自然豊かなまちで、海に面しており、観光地として人気があります。

INTERVIEW

インタビュー

一生忘れられない思い出に

ドロマーナ小学校　アンドリュー校長先生

今回の訪問で、私たちの生徒が日本で素晴らしい時間を過ごしたことは、間違いありません。行方市の小学校を訪れたことで、日本の日常生活について多くのことを学びました。この経験は、生徒たちのこれからの人生にとって、とてもよい影響を与えたことでしょう。訪問した生徒の多くが、これをきっかけとして、これからさらに日本語学習に情熱を持って取り組み続けていくことを願っています。

今回、私は日本の学校が、どのように運営されているかを見て、非常に驚きました。そして日本と比較して、オーストラリアの学校運営について、より深く考えるきっかけとなりました。

訪問させていただいた学校の皆さんには、私たちを温かく迎えてくださったことに、心から感謝します。伝統的な日本の遊びを教えていただいたり、一緒に昼食やさまざまな活動をしていただいたりしたことに感謝します。皆さんのおかげで、一生忘れられない素晴らしい思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。

▲昨年のオンラインでの交流の様子

交流の経過

H27（2015）	オーストラリアのヴィクトリア州政府東京事務所の駐日代表から「小学校同士の交流ができないか」との提案があり、交流事業の検討を開始
H28（2016）	北浦小学校とドロマーナ小学校が、インターネットを使った対面形式の交流を開始
H29（2017）	麻生小学校とレッドヒル小学校が、交流を開始
H30（2018）	ドロマーナ小学校とレッドヒル小学校の生徒16人、引率者4人の合計20人が行方市へ
H31（2019）	麻生東小学校と玉造小学校の交流校が決定し、市内全小学校がインターネットを使った交流事業を年間を通して実施
R2（2020）	コロナ禍も継続して交流を実施
R6（2024）	ドロマーナ小学校とレッドヒル小学校の生徒20人、引率者4人の合計24人が行方市へ

●今回の交流プログラム（学校）で印象に残ったことは？

前回の2018年と変わらず、各学校でのおもてなしがとても盛大であったことと、生徒たちのエネルギーの高さが印象的でした。

●学校訪問以外で印象に残ったことは？

ホームステイの一家族に同行する機会があり、日本人家族の普通の生活を体験することができました。バレーボールの試合に同行することになり、ご家族が力を入れて応援されている姿にとても感動しました。

●前回と変わったことや、変わらないことは？

前回とは季節が違ったので、前に体験した芋掘りなどがなかったのが残念でした。変わらないことは、各学校でのアクティビティーの質の高さでした。

●今後どのように交流をしていきたいですか？

今後もオンラインでの交流は続けて、2年に1回の行方市訪問も実現していきたいです。今回は、昼間だけの家庭訪問というホームステイでしたが、今後は宿泊での交流ができればと考えています。実際に準備から実施までにかかった期間は、ほぼ1年くらいです。その間、さまざまな方との間で調整していただいた教育委員会の職員の皆さんには、心より感謝しています。

ドロマーナ小学校 多田 尚子 先生

オーストラリア在住。ドロマーナ小学校で日本語を教えています。当初に交流のきっかけを作ってくれた方です。

北浦小学校
石橋 瑞紀さん

交流会では、オーストラリアの小学生と一緒にソーラン節を踊りました。みんな上手で驚きました。私は今回の交流会を通して、海外で英語を学び、もっと会話をしてみたいと思いました。

遊びを通じて

各校で趣向を凝らした交流が行われました。日本の伝統的な昔遊びでは、習った英語を使いながら、身ぶり手ぶりを交えて、遊び方を教えていました。言葉ではうまく伝わらなくても、一緒に同じ遊びをすることで、楽しみながらコミュニケーションを取っていました。

にぎやかな給食

「オーストラリアでは給食がなく、各自持ってきた昼食を10分で食べて外に遊びに行きます。日本では昼食をみんなでそろって食べ、片付けをする様子は素晴らしかった」とアンドリュー校長先生は、給食が印象に残ったことの一つだったと話していました。席を並べて一緒に食べながら、献立の説明をしたり、普段オーストラリアで食べているものを聞いたりして、とても盛り上がっていました。

市民とのふれあい伝統体験

七宝焼体験、茶道体験、和太鼓体験など、日本の伝統文化の体験を、市内で活動する皆さんのご協力により実施しました。どの体験も、真剣に話を聞きながら、取り組む姿がとても印象的でした。本市ならではのおもてなしと市民の方との交流は、心に残る思い出になったことでしょう。

玉造小学校
荒木田 結衣さん

オープニングセレモニーで、始めの言葉を担当しました。とても緊張しましたが、英語で話したことが伝わって、すごくうれしかったです。また授業では、英語で発表したことにうなずいてくれたり、質問してくれたりして、英語を話すことがとても楽しく感じられました。これからもっと英語を勉強して、オーストラリアでホームステイすることが私の夢です。

Special Activity

麻生藩家老屋敷見学

西蓮寺見学

茶道体験

七宝焼体験

スイートポテトづくり

北浦童太鼓体験

フェアウェルパーティー

今回の交流事業にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

交流スケジュール

7月3日（水）
メルボルンから日本へ

7月4日（木）
麻生藩家老屋敷見学
麻生小学校、玉造小学校交流
西蓮寺見学

7月5日（金）
北浦小学校、麻生東小学校交流
七宝焼体験

7月6日（土）
ホームステイ、茶道、スイートポテトづくり、北浦童太鼓各体験、フェアウェルパーティー
※7月4日～6日：レイクエコーに宿泊

この交流をきっかけに

普段なかなか触れ合うことのできない海外の同世代の子どもたちとの交流は、多くの児童にとって、とても貴重な体験であり、また、海外に興味を持ち、英語を学ぶきっかけにもなっているようです。

このような、海外の学校と年間を通して交流する事業は、本市ならではの取り組みです。今後もつながりを大切にし、継続的に実施する環境を整えていくことが非常に重要です。

麻生小学校
出沼 希子さん

日本の伝統武芸を紹介するために、剣道を披露しました。形や模範試合を実演するのはとても緊張しましたが、オーストラリアの小学生が、剣道の体験を喜んでくれて、武道を通して交流できたことがとてもうれしかったです。これからも、自分の特技を生かして、外国の人たちと交流を深めたいと思います。

麻生東小学校
楠 凛菜さん

私は、折り紙で花の折り方を教えました。隣で一緒に折ることで、上手に折ることができていました。コミュニケーションを取るときには、授業で習ったフレーズを使うことで会話をすることができました。今回のような体験がまたできたとしたら、たくさんの友達と仲良くなりたいです。

行方市から海外へ　中学生海外派遣事業

世界を感じる、オーストラリアで学ぶ

行方市中学生海外派遣事業は、旧玉造町時代の平成11（1999）年度からスタートし、合併後も継続して実施している事業です。令和2（2020）年度からは、新型コロナウイルスの影響により実施できていませんが、平成31（2019）年度までの参加者は、合計464人になります。

異文化に触れる

本事業の目的は「未来を担う行方市の中学生を海外に派遣し、語学研修及びその国の文化、風俗、習慣等にふれ、国際感覚を養うとともに、広い視野から郷土及び国家・国際社会に対する理解を深めること」です。中学生という最も多感な時期に、五感で異文化に触れることで、将来の進路や職業などを考えるきっかけにしてもらうことがねらいです。

生きた英語を学ぶ

参加者のほとんどが、海外は初めてという生徒ばかりです。飛行機に初めて乗るという生徒もいます。

海外派遣では、生徒は現地の学生と一緒に学校生活を送り、ホストファミリーの家でホームステイをします。もちろん日本語は通じない環境です。現地の学生と同じ教室で学び、現地の方と生活をすることで、生きた英語やオーストラリアの生活文化を学びます。また、市内を散策することで、日本とは違う建物や景色に触れ、歴史や文化を学びます。

海外に目を向けて

近年は多様化が進み、活躍の場は、日本から海外へと広がっています。また、数多くの外国人が来日しています。本市の生徒たちが異文化に触れ、国際社会に目を向けることにより、郷土と社会の未来を切り拓くことが期待されます。

海外派遣の経過

H11（1999）	旧玉造町で中学生海外派遣事業を開始 メルボルン・シドニーの２都市を訪問
H15（2003）	SARS により中止
H18（2006）	合併後、行方市として事業を実施 メルボルン・シドニーの２都市訪問
H21（2009）	新型インフルエンザにより中止
H28（2016）	この年度以降は、メルボルンのみを訪問
R 2（2020）	新型コロナウイルスにより中止

※旧町６回、市 13 回の合計 19 回実施

平成 29 年度

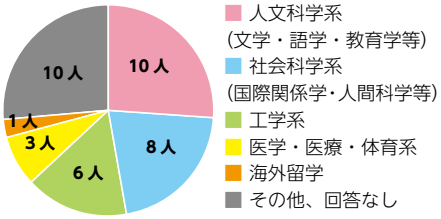
平成 30 年度

令和元年度

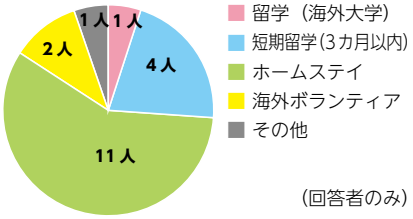
▲過去の海外派遣の記事はこちらから

海外派遣参加者のその後

進学先（大学等）

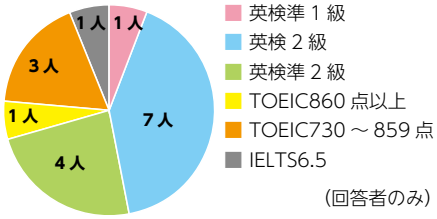


留学・海外経験



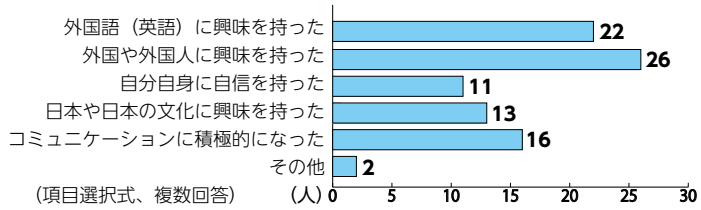
（回答者のみ）

英語関連資格



（回答者のみ）

参加後の影響



（項目選択式、複数回答）

参加者の声（自由回答）

- 英語力不足を実感し、英語に真剣に向き合うようになれた。
- さまざまな国の文化や人に触れることが、こんなにもワクワクすることなんだと気がついた。
- 日本文化を海外の人に伝える面白さに目覚めたきっかけになった。
- 大学進学の際や就職の際に進路を決めるきっかけになった。
- 海外に行ったことで他国の魅力を感じつつ、改めて日本の良さを実感した。
- 日本の文化や歴史についても学びたいと考えるようになった。

（自由回答から一部抜粋、要旨を記載。）

回答者：平成 18 年～ 22 年の参加者 38 人（全体 158 人）
調査年度：令和元年度

その後の進路は

本事業に参加した生徒のその後を調査しました。

半数以上の生徒が大学へ進学し、多様な学部を選択しています。また、再度ホームステイを経験した生徒や、英語圏への短期留学をした生徒が多くいました。中には、高校卒業後にアメリカの州立大学に留学した生徒もいました。

英語関連の資格を積極的に取得している生徒も多く、参加後に海外や英語に興味を持ったという生徒が多くいました。全体的に、参加したことで、好影響があったと感じている生徒が多かったことが分かります。

海外派遣をきっかけに

自由回答には、海外や英語に興味を持つきっかけになった、日本の文化や歴史を学ぶきっかけになった、さらには海外への留学や海外で働くきっかけになったというものが多くありました。本事業が、参加した生徒のその後の人生選択にも、大きく寄与していることが分かりました。

海外派遣をきっかけに、グローバルな感覚を身につけ、国内外で活躍することを期待しています。そして、そのような生徒たちをサポートし、夢の後押しとなるような事業を、今後も展開していきます。

異文化コミュニケーションの楽しさ

INTERVIEW
インタビュー

佐藤 颯斗さん

現在、神田外語大学外国語学部英米語学科に在籍中。大学で学びながら、海外への一人旅も多数経験。本事業には、平成 29 年度に中学 1 年生で参加。

①海外派遣に参加したきっかけは？

－以前から海外に興味があって、海外での生活や学びを体験してみたいと思ったからです。

②オーストラリアで印象に残っていることは？

－引率の横田校長先生が言っていた「百聞は一見にしかず」という言葉が、異文化交流を体験していく中で実感できたことです。

③海外派遣に参加したことでどう変わりましたか？

－行く前に比べて、海外に対する関心が強くなっていきました。そのおかげで、今も大学や旅行で異文化コミュニケーションをする楽しさを学べています。

④今、大学で何の勉強をしていますか？

－英語について勉強しています。主にコミュニケーションや言語の本質を専門的に学んでいます。

⑤将来どういう仕事に就きたいですか？

－まだはっきりとは定まっていないのですが、英語を生かす仕事や外資系の企業で働きたいと考えています。

⑥今後参加してみたいと考えている中学生に伝えたいことは？

－母語以外の言語を学ぶことは難しいと思ってしまいがちですが、自分の思いが相手に伝わった時や、異文化の人たちと交流する喜びはとても大きいです。恐れずに小さな学びから挑戦してみてください。

▲趣味の航空機の撮影のためにハワイへ。

▲参加した際にバディと撮った 1 枚。現地で知り合った方とは、今も連絡を取っている。

海外派遣スケジュール（平成 29 年度）

期日	スケジュール
Day1	出発式・行方市発
Day2	オーストラリア着・市内観光
Day3	学校プログラム・ホームステイ
Day4	ホストファミリーと過ごす・ホームステイ
Day5	ホストファミリーと過ごす・ホームステイ
Day6	学校プログラム・ホームステイ
Day7	学校プログラム・ホームステイ
Day8	市内観光
Day9	オーストラリア発・行方市着・解団式